

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 6月 13日現在

機関番号：32641

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2012

課題番号：20520181

研究課題名（和文） 日本近世を中心とする書籍類の流通と価格についての研究

研究課題名（英文） A Study about Distribution and Price of Books on Japanese Early Modern Period

研究代表者

鈴木 俊幸 (SUZUKI TOSHIYUKI)

中央大学・文学部・教授

研究者番号：00216417

研究成果の概要（和文）：

近世初期書籍目録や蔵版目録書き入れ、また購書目録等既刊の資料から抽出し、書籍価格のデータベースを作成した。また、国内の図書館・文書館を調査し、書籍価格の記事を備える資料を収集した。それに基づき、上記データベースにデータを付加し、最終的にそれをCDに収めて研究者に広く配布した。

また『書籍文化史』第10～14集を発行した。これには投稿論文とともに書籍に関する研究文献目録を収載、研究者と諸機関に配布し、研究情報の共有に資した。

研究成果の概要（英文）：

I extracted the data of price, such as purchase records and book catalogs of early modern times, from previously published material. Based on it, I have created a database of book price. Also examined Libraries and Archives of Japan, I was collecting the materials comprising the article of the book price. Based on it, I was working to enhance by adding the data to the database. And I was widely distributed to researchers in the CD it eventually.

In addition, I edited "book culture history (書籍文化史)" 10 to No.14, I issued Them, They listed the research bibliography on the book along with the manuscript. I distributed to institutions and researchers, I tried to share research information on them.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	900,000	270,000	1,170,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
総計	2,900,000	870,000	3,770,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：出版、書籍価格、書籍流通、書籍目録、読書、貸本屋

1. 研究開始当初の背景

書籍文化の研究において、もっとも立ち遅れているところは、資料も少なく、研究方法

も確立されているとはいえない書籍流通に関わる場所であった。なかでも、流通に大いに関連する書籍類の価格についての研究

は、ほとんどなされていない状況であった。書籍の価格は、生活の中で書籍の文化が占める比重、書籍が生活に浸透してくるメカニズムとその時代的变化を考察するうえで欠かせない要素である。また価格の地域差は生産地から他地域への流通経路・経費、情報回路の地域的偏差を考える上でも重要な指標であるにもかかわらず、これまでの研究では放置されてきた。

2004年度より基盤研究(C)の科学研究費補助金の交付を得て(国内現存史料の目録化を中心とする近世書籍文化についての基礎的研究)、全国各地で調査を行い、書籍文化関連史料の所在情報とそのデータを相当量蓄積しており、同様に本研究推進に必要な史料を含む既刊の書籍類についてもある程度集積することができていた。

また、国史・思想史・教育史等の領域において、書籍研究の有効性が認識されるようになり、関連諸学の交流・連携も行われるようになってきた。そのような機運の中、研究者間における情報の共有、有用なデータの公開は積極的になされるべきであると認識された。

2. 研究の目的

本研究は、日本近世における書籍文化の総体を明らかにするために書籍文化全般にかかわる研究の基盤、すなわち資料の整備と研究方法の確立とを目指して行われた。特に書籍流通の実態を明らかにすることに主力を置くのは、書籍流通の実態解明は、書籍の制作から享受にいたるまでの書籍文化総体とその歴史的展開をとらえるためにもっとも有効な方法であるからである。しかし、書籍の流通研究は、研究の蓄積がほとんど無く、研究方法も確立されているとはいえない分野でもあった。本研究は、書籍流通に関わる研究においても、ほぼ未着手である書籍の価格について、史料収集とその整理を行ない、新たな研究方法の確立と今後の研究基盤となる有効なデータ作成とを旨とした。

また、書籍・摺物に関する文化史的研究は、国文学のみならず、書誌学・日本史学・日本思想史学・教育史学等々さまざまな近接諸学が関りを持たざるをえない。これら諸学のそれぞれの学問体系の範囲内で個別に研究が行われていた状況から、近年目覚ましく脱してきている。この傾向にさらに拍車をかけるために、研究文献・資料の紹介等を主体とした情報を発信しあう場を年一回発行の雑誌というメディア上に設け、この研究分野の発展に寄与することを第2の目的とした。

3. 研究の方法

(1) 基礎的データの整備

①天和元年版『書籍目録大全』・元禄九年

版『増益 書籍目録大全』等近世初期書籍目録の中には「直段附」(書籍価格)を記したものがあつた。これについて、記事を抽出し、価格情報をデータ化した。書名・価格・成立・分類・所蔵(所収)・記事・備考の8フィールドのデータベースとした。分類については各書籍目録の分類をそのまま採用した。また価格については、金・銀・銭それぞれの単位による記載を統一せず、そのままデータ化した。

②幕末期に各書肆が販売用に発行した自店の蔵版目録の中には、価格の書き込みのあるものがあつた。『近世書林蔵版書目集成』所収の『積玉舗蔵版目録』をはじめとする蔵版目録から、これら書き込み記事を抽出して書籍価格情報をデータ化した。データの構造は近世初期書籍目録と同じにしたが、分類については、このフィールドでソートをかけた場合に同種のもものが集合するように適宜施した。

③近世から近代初頭にかけての書籍文化史に関わりのある論文や単行本などの文献を集め、データ化した。

(2) 史料調査と資料収集・整理

①各地の文書館・図書館に所蔵されている書籍の価格に関わる史料を調査した。調査先は、北海道立文書館・北海道大学附属図書館・函館私立図書館・江差町郷土資料館・秋田県立文書館・同図書館・岩手県立図書館・宮城県立図書館・東北大学附属図書館・仙台市民図書館・酒田市光丘文庫・福岡県歴史資料館・同図書館・郡山市歴史資料館・埼玉県立文書館・千葉県立文書館・成田山佛教図書館・茨城県立歴史館・栃木県立文書館・群馬県立文書館・神奈川県立図書館・国文学研究資料館・新潟県立文書館・小千谷市図書館・富山県立図書館・石川県立図書館・小浜市図書館・長野県立歴史館・沼津市明治史料館・愛知県公文書館・名古屋市鶴舞中央図書館・名古屋市蓬左文庫・和歌山県立文書館・京都府立総合資料館・大阪大学附属図書館・龍野市立歴史文化資料館・広島県立文書館・萩私立図書館・香川県立文書館・福岡県立図書館等である。これ以外に、個人蔵の史料の借覧を行った。調査対象は、引札・見積書・請取書・通帳・蔵書目録・購書目録等であり、これらについて、可能な限り、史料画像を収集し、それに基づき上記と同様のデータ構造のデータベースを作成した。

②価格記事のある購書目録等の文書類、また購入時の識語を有する和本類を収集し、これらについても、上記と同様に、価格記事を抽出してデータ化した。なお、卸値・本替価格・小売値等、各資料ごとに書籍価格の性格もさまざまであるので、それら価格の種類については極力備考欄に注記していった。

(3) 研究成果の公開と研究者間における研

究情報の共有化

①研究情報の共有化をはかるべく、研究者の投稿原稿、文献目録の補遺や蔵書目録等の資料等を内容とした雑誌『書籍文化史』を編集し、年1回発行、研究者や関係機関に配布した。

②上記(1)(2)で収集・整理した日本近世における書籍の価格についてのデータに基づくデータベースを作成し、研究者・主要機関へ配布した。

4. 研究成果

(1) 書籍流通史料の収集と価格データの整備

①日本全国の図書館・文書館等、関係資料を所蔵する施設や、資料を所蔵する個人宅を巡り、これまで未紹介であった有益な資料を数多く調査・収集しえた。当該研究に關係する書籍価格記載のある資料から価格情報を抽出し、すべて書籍価格のデータベースに付加した。

②当該研究期間に収集・入力したデータを集積し、書名を極力統一し、また分類情報を付加、また見直す等の整備を行い、最終年度に、データベースを完成させた。近世初期書籍目録とそれ以外のもものでは、分類を統一することが困難であったため、2種類のデータベースとし、それぞれtxt形式とcsv形式、また可読性を重視して加工したpdf形式の3ファイルを作成、CDに収めて研究者に広く配布した。これについては、さまざまな意見や感想が寄せられ、反響は小さくなかったものと思われる。

③各地の調査において、広く書籍流通研究に関連する資料についても多くの収穫があり、たとえば書籍流通業者についてもそのデータを大幅に増補しえた。またこの間に収集した資料の中で論文作成の有効な資料として活用することが出来たものもあり、また、書籍制作に関わる下職に関わる資料等、今後の研究の展開に資する資料も多数蓄積しえた。

④既刊の単行本・雑誌から書籍の価格に関わる資料を収集していく過程、また書籍研究文献目録に増補すべき文献等を渉猟していく過程で、広く書籍文化史研究全般に資する史料も同時に相当数収集することができた。これについては、再整理の上、研究用の工具書『書籍文化史料分類目録』(仮題)として近く公表する予定である。

(2) 研究情報の共有化

①投稿された論文・資料紹介等をもって『書籍文化史』第10~14集を編集、年1回のペースで発行した。500部印刷し、全国の図書館や研究者に配布した。

②当該研究期間内に増補しえた文献目録データは、分類を施した上で、年1回発行の

『書籍文化史』に逐次的に掲載した。さらに、最終年度、それらをすべて統合して、上記書籍価格データベースを収めたCDに同梱し、電子データとして研究者に配布した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計17件)

①鈴木俊幸、「信濃出版会社と脩道館一予約出版の蜜月と落日」、中央大学文学部『紀要 言語・文学・文化』111、査読無、2013、63-130p

②鈴木俊幸、「五車楼藤井孫兵衛宛頼支峯書簡からうかがえる二、三のこと」、中央大学文学部『紀要 言語・文学・文化』109、2012、査読無、81-97p

③鈴木俊幸、「葉書という社会資本、あるいは書籍流通史料としての葉書」、『書物・出版と社会変容』11、2011、査読無、1-37p

④鈴木俊幸、「京都の絵草紙屋和久屋治兵衛・桜井屋治兵衛」、中央大学文学部『紀要 言語・文学・文化』107、2011、査読無、93-165p

⑤鈴木俊幸、「『戊辰以来 新刻書目便覧』の諸本」、中央大学文学部『紀要 言語・文学・文化』105、2010、査読無、71-101p

〔学会発表〕(計3件)

①鈴木俊幸、「七千巻舎の男一多湖安元の書目編纂」、第67回「書物・出版と社会変容」研究会、2011年10月1日、あがたの森文化会館

②鈴木俊幸、「京都の絵草紙屋 和久屋治兵衛と桜井屋治兵衛」、第53回「書物・出版と社会変容」研究会、2009年12月5日、一橋大学佐野書院

③鈴木俊幸、「清水家文書にみる明治期安曇郡の書籍文化」、第40回「書物・出版と社会変容」研究会、2008年7月5日、一橋大学佐野書院

〔図書〕(計7件)

①鈴木俊幸、勉誠出版、『書籍流通史料論 序説』、2012、477p

②鈴木俊幸、平凡社、『新版 蔦屋重三郎』、2012、329p、

③岡雅彦他編、勉誠出版、『江戸時代初期出版年表〔天正十九年～明暦四年〕』、2011、665p

④鈴木俊幸、平凡社、『江戸の本づくし 黄表紙で読む江戸の出版事情』、2011、244p

⑤鈴木俊幸、平凡社、『絵草紙屋 江戸の浮世絵ショップ』、2010、262p、

⑥クリストフ・マルケ他、勉誠出版、『日本の文字文化を探る一日仏の視点から一』、2010、381-406p

⑦松塚俊三他、昭和堂、『識字と読書一リテ

ラシーの比較社会史一』、2010、243-272p

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鈴木 俊幸 (SUZUKI TOSHIYUKI)

中央大学・文学部・教授

研究者番号：00216417